



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

ホームページ <http://www.tmg Hig.jp/>

第139号 (平成30年5月号)

## より低侵襲で、より安全に！ — 変わりつつある心臓外科治療 —

心臓外科部長 西村 隆

「心臓外科で手術を受ける」とお聞きになると、生死にかかわる一大事とお考えになるのではないのでしょうか？確かに心臓外科手術の中には、身体に大きな負担がかかる死亡率の高い手術もあります。しかし、医療技術や機器の進歩によって低侵襲で安全な手術も増えてきているのも事実です。そこで、当センターで導入している「低侵襲心臓外科手術」のいくつかを紹介します。

### カテーテルで挿入する補助人工心臓「IMPELLA (インペラー)」

補助人工心臓とは、薬物治療やペースメーカーなどの非薬物治療で回復しない重症心不全に対して、機械的に血液循環を補助するものです。特に、一時的に心臓機能が失調する急性心不全に対しては、体外設置型補助人工心臓が用いられ、当センターでも高齢者を含めて多くの患者さまの救命が行われています。このシステムは非常に強力な循環補助能力を有しており、短期間で循環を改善して、障害された諸臓器機能を回復させることができるものです。しかし、装着にあたっては開胸手術や体外循環装置の使用が必要で、もともと予備能が低下しているうえに循環不全で全身状態の悪化している高齢の方に装着する場合には、大きなリスクを伴います。

これに対して、2017年10月より本邦でもカテーテルで装着できる補助人工心臓（インペラー）が使用できるようになりました。東京都健康長寿医療センターも全国で4番目にインペラーの使用認定施設となり、いつでもこの治療が行える状態になっています。このシステムは大腿動脈（足の付け根の血管）や鎖骨下動脈からレントゲン透視下に心臓内にポンプを挿入するもので、30分程度で緊急装着することができ、必要があれば局所麻酔で装着することもできま

す。この治療は体にかかる負担が少なくて済み、身体の状態が悪化する前にすぐに装着することができるため、高齢者を含む多くの患者さまの救命ができるようになることが期待されています。

## 胸を切らない人工弁置換術「TAVI（タビ）」

本邦の65歳以上の方の2～4%が罹患しているといわれている大動脈弁狭窄症の患者数は、全国で70～140万人といわれています。「階段を上ると息切れする」とか「最近、疲れやすくなってすぐに休みたくなる」などの症状で発症することが多い大動脈弁狭窄症は、人口の高齢化に伴って患者数が著増している日本では、もはや国民病ともいわれるようになってきました。この大動脈弁狭窄症は、早期に治療すればその後の健康寿命を延ばすことが出来ることが知られており、従来は開胸・心停止下に行う外科的大動脈弁人工弁置換術で治療されてきました。心臓外科手術の中では比較的侵襲が抑えられた手術ではありますが、80歳以上の高齢者にとっては高いリスクともなりえる手術です。この状況に対して2013年10月より経カテーテル的大動脈弁人工弁置換術（TAVI）が保険適用されるようになり、全国の137施設で使用されています。この治療はハイブリッド手術室でレントゲン透視下に行われます。大腿動脈を穿刺してカテーテルで折りたたんだ人工弁を心臓まで持っていき、透視下に留置するものです。胸を切ることなく行えるため、近年では局所麻酔下に行われることも増えており、1～2時間程度で終了することも多い治療です。

東京都健康長寿医療センターでも2016年12月から治療を開始して、既に30人以上の患者さまに治療を行っています。その中には最高96歳を含む90歳代の方も多くおられますが、約1週間程度の入院で、歩いて退院される方も多くおられます。



## 翌日から歩いてリハビリできる大動脈瘤治療「ステントグラフト」

大動脈瘤は大きくなると突然破裂して死亡することがある恐ろしい病気です。これに対して従来行われてきた人工血管置換術は比較的体にかかる負担の大きな手術術式でした。大動脈遮断、長時間体外循環、出血傾向など様々な侵襲が加わることによって、大動脈瘤は切除できて破裂のリスクは回避できても、術前の日常活動度まで回復できない患者さまもおられます。そこで、近年は大動脈瘤や血管の形態が許容できる方ではステントグラフト挿入術が多用されつつあります。この手術は、大腿動脈から経カテーテル的にステントグラフト（人工血管を金属製のステントで裏打ちしたもの）を大動脈瘤内に挿入する血管内治療です。動脈瘤内で広がったステントグラフトは動脈瘤の前後の血管に圧着されて橋渡しをする形となり、動脈瘤内の血流が遮断されて破裂するのを防ぐものです。開胸や開腹操作が不要で、足の付け根の小切開のみでアプローチが可能で、患者さまによっては局所麻酔のみでも行うことができます。



# かかりつけ医紹介窓口について

医療連携室 室長 吉澤 聖子

## みなさん、かかりつけ医はお持ちですか？

かかりつけ医をお持ちでない患者さんへ

- かかりつけ医紹介窓口 -

あなたにとって、  
最も身近な信頼できる  
かかりつけ医を  
ご紹介いたします。

当センターは、急性疾患または重症な患者さんの治療を主とする急性期病院です。当センターの医療を必要とする患者さんが一人でも多く治療を受けいただけるよう日々努めております。


したがって、急性期の治療が終了した患者さんには、主治医より今後の治療(投薬等)については地域の連携医療機関でお受けいただくようお願いをさせていただいております。

ご紹介させていただく連携医療機関<sup>※</sup>は、あなたにとって、最も身近な信頼できる「かかりつけ医」として、今後の治療を継続します。

また、病状に応じて当センターと連携して患者さんの健康を支えます。

- かかりつけ医紹介窓口にてご紹介を行っております -

受付時間	平日午前9時から17時まで
場 所	1階「⑧ 入退院支援室」
担 当	医療サービス推進課 医療連携室
	☎ 03-3964-1141(内線1139~1142)

 地方独立行政法人  
東京都健康長寿医療センター

「いつもの薬がなくなりそう、今度の区の検診どうしようかな、そういえば、うちのお母さんのもの忘れが増えてきたような気がするけど・・・病院へ行った方がいいのかな？」

そんなときに、「あの先生に相談しよう！」と顔が思い浮かぶお医者さんが、あなたの「かかりつけ医」です。

「かかりつけ医って、東京都健康長寿医療センターの先生ではいけないの？」

「東京都健康長寿医療センターから追い出されてしまうの？」

そんな不安もおありかと思いますが、もちろんそんなことはありません。当センターも、かかりつけ医の先生と一緒に、みなさんの健康を支えるお手伝いをさせていただきます。

では、どうして今、「かかりつけ医を持ちましょう」なのでしょう？

それは、今の日本の社会が大きく変化しているからです。

日本の高齢化は世界で最も進んでおり、全人口の4人に1人が65歳以上になっています。2025年の人口は1億2000万人、うち、65歳以上人口は3,658万人、75歳以上人口は2,179万人へ増加します。一方で、労働者人口(15歳から65歳以下の成人)が8,409万人に減少することから、65歳以上を支える比率は1990年の5.1人から2025年には1.8人、2060年には1.2人となります。この超高齢社会を乗り越えていくために、国や地方自治体が、準備を進めているのが「地域包括ケアシステム」です。

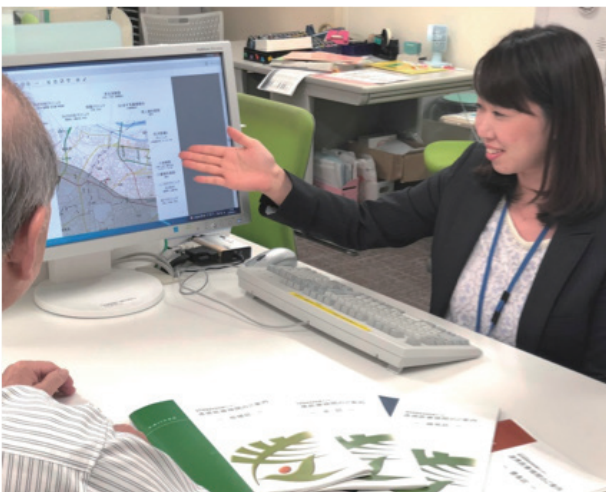
「地域包括ケアシステム」とは、「みんなが住み慣れた地域で、その時の状態に合った適切な医療を適切な場所で受けられることを目指すもの」であり、今の日本の医療は、病院で全ての治療を行う『病院完結型医療』から、「医療機能の分化と連携」によって、地域の医療資源を最大限活用する『地域完結型医療』に転換しつつあります。医療の役割を分担し、患者さまにとって最良の医療を提供しようという考え方です。それに伴い、病院も、急性期、回復期、慢性期の3タイプの役割に分かれてきています。当センターは入院による治療や手術が必要な患者さまを担当する急性期病院です。治療後に積極的なリハビリテー

ションを行う場合は、回復期病院が、家に帰るまでもうしばらく療養生活を送ったほうがよい場合は慢性期病院が担当します。みなさんにお持ちいただきたいかかりつけ医は、みなさんの普段の健康を支え、困ったことがあったら、相談に乗ってくれる地域の診療所です。そして、大きな検査が必要なときや重篤な病状のときには、当センターにつなげてくれます。

お互いが得意とする役割分担が違うだけで、どちらもみなさんにとって大切な医療機関であると思っただけでしょうか？ 東京都健康長寿医療センターは、「急性期病院」として、かかりつけ医と連携し、共にみなさんの健康を支えています。

当センターでの治療がある程度落ちついた患者さまには、担当医から、今後はかかりつけ医にて治療を継続いただくようご案内させていただいております。もちろん、かかりつけ医をお持ちの方には、元々のお医者さんにて、今までの治療経過のご報告とともに治療を継続していただきます。

もし、みなさんが「かかりつけ医」をお持ちでない場合、当センター1階8番、「かかりつけ医紹介窓口」にお立ち寄りください。「あなたにとって最も身近な信頼できるかかりつけ医」をご紹介します。（平成29年8月に窓口開設後、600件近くのご相談をお受けしています。）



板橋区をはじめ、豊島区、練馬区、北区等、714件の医療機関（平成30年3月31日）が、当センターの連携医として当センターと協力してみなさまの健康を支えています。もし、ご興味があるようでしたらホームページより「連携医検索」（<http://www.tmg Hig.jp/hospital/community/search/>）をご覧ください。

みなさんにとって身近なお医者さんが、当センターの連携医かもしれません。



## 患者さまの声

入院のために来院した母に、看護師さんがずっと付き添って下さり、母の呼吸がおかしいと気づくとすぐに救急外来に連れて行って下さいました。そのまま入院となりましたが、看護師さんが早急な対応してくださったおかげで、順調に回復することができました。どうもありがとうございました。

担当の看護師さんが「いつも笑顔ですね」と声をかけてくださった。患者の顔が一層明るくなりました。ありがたいです。プラスの声掛けをして頂くと病気も良くなりそうな気がします。これからもよろしくをお願いします。

看護師が事務的なことばかりでなく、ほんの一言でも声をかけてくださることが本当にありがた

かった。多忙の中ありがとうございます。皆様に手をかけて頂いていると思うと心苦しいですが、これからもよろしくをお願いします。

50日間に及ぶ入院でしたが、シャワー浴が1日おきにできて不快のない入院生活が送れました。看護師の皆様はどなたも礼儀正しく、患者への対応、声掛けも適切で病院全体のイメージも良かったです。

初めての胃の内視鏡検査に大変不安でしたが、看護師さんが優しく声掛けをして下さり、落ち着かせていただきました。あっという間に楽に検査ができて良かったです。ありがとうございました。

## 「春の音楽鑑賞会」について

板橋区演奏家協会会員の長野 佳奈子さん（ソプラノ）、山村 紗矢香さん（ソプラノ）、三澤 彩花さん（フルート）、鈴木 架哉子さん（クラヴィノーバ）による「春の音楽鑑賞会」を3月6日水曜日午後4時から2階レストランにて開催しました。患者さまとご家族の方々などおおよそ80人の皆様にお集まりいただき、春にちなんだ「花の街」、「花占い」など6曲を演奏。なじみのある曲の美しい調べが、会場を暖かく包み込み、皆さんの顔には笑みが溢れ、患者さまやご家族の皆様と共に楽しい癒しのひとときを過ごすことができました。

センターでは、これからも患者さまやご家族にとって、より良い療養環境を提供できるよう、取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。



### ホームページをリニューアルしました！



平成30年3月30日より東京都健康長寿医療センターホームページをリニューアルしました。

ぜひご覧ください。

URL:<http://www.tmg Hig.jp/>

